

株式会社 銀河農園



いわて特産品コンクール「県知事賞」の賞状を持つ橋本社長と社員の皆さん

町内の企業をシリーズで紹介。今月は、水耕栽培でトマトを生産する株式会社銀河農園を訪問しました。

今年九月、同社が作るトマト果汁を瓶詰めにした「賢治のトマト・飲むトマト」が、平成二十一年度いわて特産品コンクールで県知事賞に選ばれました。

社長の橋本正成さんは、盛岡市を中心に展開していたドラッグストアを売却し、平成十六年に全く未経験の農業に転身。農地を探すために参加したシンポジウムで、紫波町から支援の申し出があり、糸

件の整った陣ヶ岡神社の近くに移住しました。年間を通して収穫できる水耕栽培に着目した橋本さんは、各地の農場を視察に訪れ、水耕栽培のノウハウを習得し、ウインダートランドファームの会社名で五百坪のハウス一棟からスタート。全国で三番目に導入した県内唯一の最新水耕システムにより、地下一五〇センチからくみ上げた深層地下水を使用し、コンピュータで温度管理を行うトマト栽培を始めたのです。

移住後は、地元を理解を得ようと、集会所や祭りなどに積極的に参加してきたそうです。今年一月、有限会社八幡平農研と合併し、社名を株式会社銀河農園に改めました。町にある農園は現在、二千坪で二本のトマトを栽培しており、家族三人に従業員と研修生を含む十四人が働いています。八幡平市の農場では、ホウレン草やピーマンなどの野菜を生産。会社として、海産物や短角牛、山菜やキノコなどの県産品も取り扱っています。

橋本社長は「今回受賞した飲むトマトは、もともと糖度の高い生食トマトを、一切添加物や水を加えることなく、純粋に果汁だけを瓶に詰めています。試作商品でアドバイス欲しさに出品しましたので、正直驚いています」と話しています。また「地域ナンバーワンを目指して頑張る、次に町内一、県内一、世界一へと、夢はだんだん大きく、みんなに話すことで自分にプレッシャーをかけながら頑張っていくたいです」と語っていました。

町長からメッセージ

高齢者月間に思う

平成二十一年四月に「元気はつらつ高齢者計画」を改定し、平成二十三年度までの三カ年を目標年度とした新たな計画を策定しました。新計画は「この町で元気はつらつに暮らす人を増やそう」をテーマとして、次の三つの目標を掲げております。

第一に、生き生きと自宅で暮らせる高齢者が増えること。第二に、安心して自立した日常生活を営む方々が増えること。第三に、優しく高齢者を支え合う地域が増えること。いわゆる高齢者は家庭のみではなく、地域全体で支え合うことが必要であるということです。

毎年九月、八十八歳の米寿を迎えられた人のご家庭を訪問しておりますが、今年も九月末に二日間かけて訪問させていただきました。そのうち男性は全員、兵役に付された経験を持ち、九死に一生を得て帰還され、語り尽くせぬ苦勞を味わった方々でありました。女性の方々も銃後の守りと食糧不足で苦勞を重ねた方々でありました。

米寿を迎えられてなお元気な方々は年々多くなっており、お話しを伺うと「食事は好き嫌いが無く、味付けは酢味を使う」とか「趣味を通じて楽しみを持ち、本や新聞を読んで世の中に興味を持っている」「自分のやるべき仕事を持ち、十分に生きる気力を持っている」といった方々が、元気はつらつと暮らしておられました。訪問したご家庭の皆様には感謝を申し上げます。

訪問を終え、今の平和は高齢者の皆様の犠牲の上に成り立っておりますことを痛切に感じさせられたところでもあります。一人一人が思いを持って生きてこられた貴重な体験談は、とても得ることが多く、人生の先達として我々を導いていただきたいものであります。そのためにも高齢者福祉の充実に努めてまいります。

米寿を迎えられました皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

藤原 孝